

各位

全3ページ

登録速報(2023-060)
2023年 1月25日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り新規登録となりましたので、ご連絡します。

新規登録年月日：2023年1月25日

記

1. 農薬の種類及び名称

種類：スピネトラム・トリフルメゾピリム・ジクロベンチアゾクス・ペンフルフェン粒剤
名称：ブーンハーデス箱粒剤
登録番号：第24727号

2. 農薬の物理的・化学的性状

類白色細粒

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

スピネトラム 1.0%

スピネトラムJ

(1*S*, 2*R*, 5*R*, 7*R*, 9*R*, 10*S*, 14*R*, 15*S*, 19*S*)-7-(6-デ`オキシ-3-*O*-エチル-2, 4-ジ`-*O*-メチル- α -*L*-マンノピ`ラノシルオキシ)-15-[(2*R*, 5*S*, 6*R*)-5-(ジ`メチルアミノ)テトラヒド`ロ-6-メチルピ`ラン-2-イルオキシ]-19-エチル-14-メチル-20-オキサテトラシクロ[10. 10. 0. 0^{2,10}. 0^{5,9}]ト`コサ-11-エン-13, 21-ジ`オン 0.76%

スピネトラムL

(1*S*, 2*S*, 5*R*, 7*S*, 9*S*, 10*S*, 14*R*, 15*S*, 19*S*)-7-(6-デ`オキシ-3-*O*-エチル-2, 4-ジ`-*O*-メチル- α -*L*-マンノピ`ラノシルオキシ)-15-[(2*R*, 5*S*, 6*R*)-5-(ジ`メチルアミノ)テトラヒド`ロ-6-メチルピ`ラン-2-イルオキシ]-19-エチル-4, 14-ジ`メチル-20-オキサテトラシクロ[10. 10. 0. 0^{2,10}. 0^{5,9}]ト`コサ-3, 11-ジ`エン-13, 21-ジ`オン 0.24%

3, 4-ジ`ヒド`ロ-2, 4-ジ`オキソ-1-(ピ`リミジン-5-イルメチル)-

3-(α , α , α -トリフルオロ-*m*-トリル)-2*H*ピ`リド` [1, 2-*a*]ピ`リミジン-1-イウム-3-イド` 0.75%

3-(3, 4-ジ`クロ-1, 2-チアゾ`ル-5-イルメトキシ)-1, 2-ベンゾ`チアゾ`ル=1, 1-ジ`オキソ 2.0%

2'-[(*RS*)-1, 3-ジ`メチルブ`チル]-5-フルオロ-1, 3-ジ`メチルピ`ラゾ`ル-4-カルボ`キサンリド` 2.0%

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度（15 に掲げる事項を除く。）

鋳物質微粉 等 94.25%

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種時(覆土前) ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使 用土壌約5L) 1箱当り50～100g)			

スピロホラムを 含む農薬の総使用回数	トリフルメピリムを 含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを 含む農薬の総使用回数	ペンフルエンを 含む農薬の総使用回数
3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田での散布は 2回以内)	1回	1回	1回

使用期限：5年6箇月

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- 1) 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすこと。
- 2) 苗を田植機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とした後軽く灌水すること。
- 3) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 4) 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 5) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないように注意すること。
- 6) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないこと。

- 7) きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけること。
- 8) 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

- 1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- 2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- 3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

9. 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨
通常の使用方法ではその該当がない。

10. 農薬の貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

以上